



平成30年度 新城地域自治区予算事業 **さんさく 散策マップ** しんしろまちなか **しんしろ城下町の会**



① 新城城跡
しんしろじょうあと

天正3年(1575年)の長篠・設楽原の戦いの功績により奥平信昌が築城。城の名は付いてはいるが、実際は平屋建て陣屋であったという。



② 新城尋常高等小学校跡
しんしろじょうこうとうがっこうあと

明治20年(1887年)に開校した。この木造校舎は、大正4年(1915年)に建て替えられたもので、昭和55年(1980年)まで使われていた。



③ 太田白雪句碑
おたはくせつくひ

太田白雪は、本町出身の江戸時代の俳人、31歳の時に松尾芭蕉を鳳来寺山に案内して以降、門下となった。



④ 有教館跡
ゆうきょうかんあと

享保13年(1728年)に開校されて、安永9年(1780年)領主の菅沼定前によって「有教館」と名付けられた。文武両道の学び舎であった。



⑤ 妙見堂
みょうけんどう

慶安元年(1648年)新城城主菅沼定実が丹波亀山から移封された際、新城城の鬼門除けとして祀られた。



⑥ 新河岸跡
しんがしあと

江戸時代の初め頃、この場所に船便による湊ができ、新河岸と名付けられた。その目印として当時植えられたムクの木が今も残っている。



⑦ 平吉大明神
へいきちだいまいみょうじん

厳島神社の鳥居をくぐって右側に祀られている神様。新城昔ばなし365話(以下「365話」という)に、この神様に病気がかかった人がお願いすると治ったという話が残る。



⑧ 厳島神社
いづくしまじんじや

弁天橋のすぐ脇にある神社。天明5年(1785年)天明の大飢饉の折に雨乞いのために建てられたという説が有力である。



⑨ 八幡神社
はちまんじんじや

東新町、弁天、沖野、八幡の地域の氏神様。祭神は菅田別命。御神木である大スギは樹齢約700年で市指定文化財(天然記念物)である。



⑩ 最勝院
さいしょういん

大善寺の末寺として寛永元年(1624年)に創建された浄土宗の寺院である。鎌倉時代末期の作とされる薬師如来像などの文化財がある。



⑬ 新城高等女学校跡
しんしろこうとうじやうがっこうあと

新城中学校の校舎の北に当時の校舎の一部が現存する。戦時中は、講堂等が軍需工場として利用された。



⑭ 新城農蚕学校跡
しんしろのうさかむかしのがっこうあと

新城高校(平成31年4月から新城有教館高校)敷地にあった。当時の建物は既がないが、質実剛健の校訓は、新城高校に受け継がれている。



⑮ 観音堂
かんのんどう

弥勒菩薩が祀られているお堂。弥勒菩薩【おみろくさま】は、365話に、汗かき弥勒の話が残る。また、観音堂前の六地藏の脇にある石塔にまつわる365話で、眼病を防ぐ石塔の話が残っている。観音堂前の十王堂を覗くと、冥土の様子を垣間見ることができる。



⑰ 金胎寺
こんたいじ

365話で金胎寺の和尚さまの話が残る。昔ばなしにまつわる白髭大権現の像が祀られている。



⑯ 田町の清水
たまちのみず

新城文化会館裏駐車場の北側にある湧水。かつては、近隣住民がここで野菜を洗ったり洗濯をしたりしていた。現在「田町の清水を守る会」が定期的にこの場所を清掃している。



⑰ 横町の三角井戸
よこちょうさんかくいど

東新町で現在も利用されているという共同井戸。昔はまちなかにこのような共同井戸が多くあった。



⑪ 秋葉神社
あきはじんじや

火の神様をお祀りしている神社。市指定無形文化財の立物花火の竿はここに保管されている。



⑱ 富永神社
とみながじんじや

西新町、本町、入船、中町、栄町、橋向、的場の地区の氏神様。祭神は須佐之男命。境内の能楽殿は、市指定文化財で、祭礼能は市指定無形文化財である。365話に白へび様の話が残っている。



⑲ 橋向の道標
はしむらみちしるべ

東西の伊那街道と南北の拳母街道が交差する地に建てられた道標。現在残っているこの道標は明治37年(1904年)に建て替えられたもの。



⑳ 頌徳之碑
しょうとくのかい

初代新城橋を架けるために奔走した人々の功績が記される。初代新城橋は民費で架けられた。



㉑ 厳島神社
いづくしまじんじや

貞享5年(1688年)井道村の弁天様から勧請。宝永2年(1705年)菅沼家により社殿改築された。社殿内部に、橋が架かっているのが珍しい。



㉒ 芭蕉句碑
ばしょうくひ

京に飽きて、此こからしや、冬住居、松尾芭蕉が奥の細道の旅を終えて2年半ぶりに江戸へ帰る途中新城の太田白雪を訪れた際に詠んだ句。庚申寺境内にある。



㉓ 庚申寺
こうしんじ

曹洞宗の寺院。365話でお殿様が建てた庚申寺の話が残る。境内の三猿が有名なお寺。

しんしろの寺まち

長篠・設楽原の戦いにおけるしんしろの寺まち

⑳ 永住寺
えいじゅうじ
長篠・設楽原の戦いの功績で新城城を築いた。奥平信昌。その父、奥平貞能が創建。太田白雪の菩提寺でもある。山門のクロマツはとても大きく見る者を圧倒する。太田白雪句碑は、旧新城町役場の門柱を加工してつくられている。また本堂西の太田白雪の墓碑には、辞世の句が刻まれている。また、山門をくぐると、365話にある妙見様と亀の石碑がある。



永住寺本堂



山門前のクロマツ



妙見様と亀の石碑



桃牛寺本堂



山門

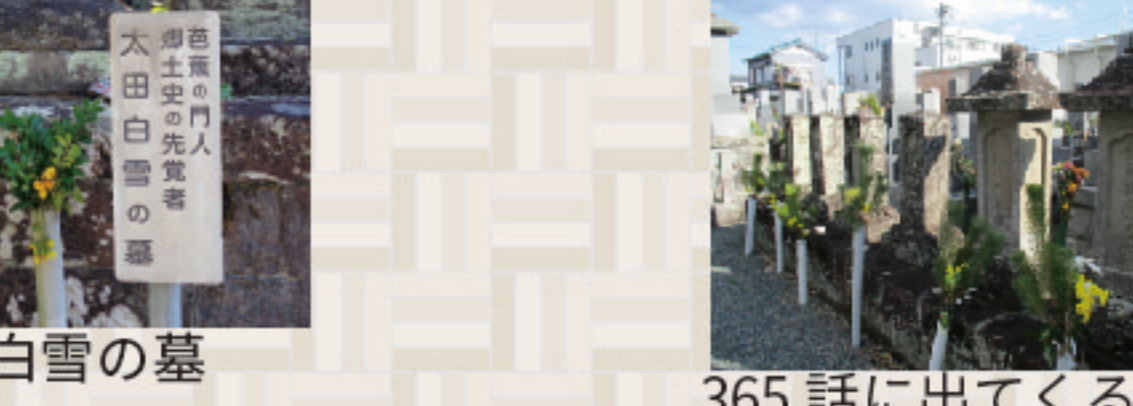
⑳ 大善寺
だいぜんじ
徳川家康の長女、「亀姫」が創建した。このことから、江戸時代よりこの大善寺では、徳川家の家紋である葵の紋を使用することが許されていた。現在も山門や土塀に葵の紋を見ることができる。亀姫の墓もこの大善寺にある。



大善寺山門



亀姫の墓



365話に出てくる六人仏の墓と手水鉢

そうけんじ 宗堅寺

⑳ 宗堅寺
そうけんじ
新城藩主菅沼家の菩提寺。武田信玄を撃つたとされる「信玄砲」がこの宗堅寺に保管されている。元亀4年(1573年)、武田信玄が3万の兵を率いて野田城を攻めた折、夜に笛の音に誘われて城の近くまで来た信玄を、火縄銃の名手が撃つたという伝説があり、使われた火縄銃がこの「信玄砲」である。また、新城城主菅沼家の重臣、池田寛親が書いた、「船長日記」が発見されたのもこの宗堅寺である。この日記は半田の船頭重吉を主人公とする、廻船菅兼丸の484日に及ぶ太平洋漂流記である。



宗堅寺山門

菅沼家の墓

船長日記発見の地の碑

㉑ 浄泉寺
じょうせんじ
鳥居強右衛門と共に長篠城を脱出した鈴木金七郎家の菩提寺とされる。元禄元年(1592年)吉田城主池田輝政の家老で新城城主であった片桐半右衛門により創建された。四季桜がとても美しいことで有名。



浄泉寺本堂

浄泉寺山門と四季桜



桜淵の名称発祥の地

新城市字桜淵の地名が今も残る

春の桜淵 - 桜と笠岩橋 -



秋の桜淵 - 紅葉と笠岩橋 -

昭和の頃の桜淵



夏の桜淵 - 新城納涼花火大会 -



冬の桜淵 - 雪景色と太鼓橋 -